

# やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Wikimedia Commons : Green monkey

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.10

## 快挙！遠藤弓人さんが JICA 理事長賞を受賞

2010年2月の帰国報告会で発表して頂いた米沢市出身の青年海外協力隊OB・遠藤弓人さんが、2011年度の国際協力機構（JICA）理事長賞に選ばれました。国際協力で顕著な功績を収めた個人・団体に贈られるもので、第7回の今年は3個人、5団体が選出。

### ■セネガルでマラリア予防に貢献

2007年、遠藤さんは看護師として勤務していた米沢市立病院から協力隊へ現職参加。アフリカのセネガルで看護師隊員として、マラリア予防に尽力しました。基礎保健の改善・無資格スタッフの再教育・マラリア予防等啓発活動の実施支援・個別家庭訪問による健康指導・保健小屋の運営強化支援など幅広い活動を展開。

2007年に人口250人の中で子ども10人がマラリアで亡くなっていた村では、医療設備が乏しい中、マラリア予防啓発や蚊帳の無料配布などにより、2008年は死者ゼロで乗り切るという目覚ましい成果を挙げました。

活動対象の村だけでなく、州保健局や国の保健予防省全体に影響を与えました。

### ■国際協力の意義を再認識

2011年10月、東京のJICA研究所で行なわれた表彰式で緒方貞子理事長は「東日本大震災の際、開発途上国を含む多くの国や地域から受けた支援について、これまで日本が行ってきた国際協力の意義を再確認した方も多かったのではないかと。最前線での皆さまの献身的なご協力とご尽力には、心から感謝と敬意の念を表したい」「受賞した優良事例が日本国内での課題を解決するにあたって大変参考になる」と述べました。

### ■海外での経験を地元に戻元

帰国後は米沢市立病院に復職。看護師としての勤務の傍ら、各地で経験談を講演し、募金活動によってシンチュウマレム村に救急車を贈りました。また、市民に国際理

解教育の輪を広げる活動を行うグループ「FKG米沢」を設立（セネガル語の「Fofu Ko Goton」＝「肌の色が違っていてもみな同じ」）。協力隊での経験を地元に戻元しています。

遠藤さんは現在、栃木県の国際医療福祉大学病院に勤務。今回の受賞について「賞は同僚やセネガルのスタッフなど、支えてくれた全員を代表して受けるのだと思っています」と語っておられます。

## 第50回 JICA 国際協力 中高生エッセイコンテスト 入賞おめでとう！

※詳細は次頁に掲載

テーマ「これからの日本～世界の中で私たちができること」



山形県では8名が個人賞に、8校が学校賞に入賞。

#### ★優秀賞（高校生の部）

「モンゴルの空で輝く星」武田彩花さん（県立東根工業高校2年）

#### ★審査員特別賞（中学生の部）

「ふたつの手」佐藤智さん（山形大学附属中学3年）

#### ★学校賞

県立酒田商業高校（特別学校賞）  
米沢市立第四中、長井市立長井北中  
私立山本学園高、県立米沢商業高  
県立鶴岡北高、県立谷地高、県立庄内農業高

#### ★国内機関長賞

渡部秀平さん（米沢市立第4中）、酒井雄太さん（米沢商業高校）

#### ★佳作

後藤正好さん（庄内農業高校）、木村朝美さん（庄内農業高校）

#### ★青年海外協力隊OB会長賞

横山 迅さん（米沢市立第4中）、渋谷侑樹さん（山本学園高校）

エッセイ  
コンテスト  
表彰

## エッセイコンテスト表彰式 帰国報告会 ボランティア留守家族連絡会を開催！

2012年3月3日（土）、山形テルサ1階大会議室にて「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト表彰式& JICA ボランティア帰国報告会」を開催し、51名のご参加がありました。その後、JICA ボランティア留守家族連絡会も開催しました。

（共催：NPO 法人山形県青年海外協力協会、JICA 東北支部）

### ■国際協力エッセイコンテスト表彰式



「これからの日本～世界の中で私たちができること」をテーマに募集。中学生の部 50,303 点、高校生の部 25,359 点、総数 75,662 点ものご応募をいただきました。山形県では、8名が個人賞に、8校が学校賞に入賞。受賞者、受賞校への表彰式を行い、受賞者に作文の朗読をして頂きました。

（受賞者、受賞校は前頁に掲載）

受賞者の朗読では、朗読の仕方だけでなく、中高生のしっかりとした意思や考えに多くの方が感動しました。受賞された皆さんの今後の活躍が楽しみです。

＜参加者から＞ 自分に今出来ることを自分の言葉で語っているのが印象的 / 一人一人の視点と切り口が多様で発表態度もスッカリ！

### ■JICA ボランティア帰国報告会

JICA ボランティア帰国報告会も開催しました。開発途上国の国づくり、人づくりに貢献した山形県出身のお二人に、派遣国の現状や課題、そしてご自身の活動について語っていただきました。

帰国報告会では、なかなか聞く事のできない国や活動の様子に食い入るように聞いていた中高生の姿が印象的でした。

若い世代にいわゆる「途上国」と言われる国々を、一部とはいえ伝えることができたのは、報告者にとっても有意義だったのではないかと思います。

◆上野 美穂さん

青年海外協力隊 / 2009.9～2年間派遣  
派遣：マダガスカル 職種：青少年活動

◆小角尚子さん

日系社会青年ボランティア / 2009.6～2年間派遣  
派遣国：パラグアイ 職種：ソーシャルワーカー



＜参加者から＞ 力強さと逞しさと共に人と人とのつながりを持つ人柄に拍手！ / 各地域の特色などを細かく聞く事ができてタメになった

### ■JICA ボランティア留守家族連絡会

ボランティア家族連絡会には、派遣中隊員のご家族9名の方が参加し、関係団体や帰国隊員と懇談しました。

現在派遣中の JICA ボランティアのご家族が日頃抱えている、ボランティアの活動中の安全対策や健康管理、さらには帰国後の進路等を中心とした不安を軽減する目的で開催されました。



すでに帰国しているボランティアや、留守家族同士の交流の機会としても非常に有意義な機会となっています。

前半は JICA より安全対策、健康管理などの話、また JICA ボランティアを支援している関係団体からも事業内容について説明があり、ご家族の皆さんの疑問・不安が少しでも解消されたのではないかと思います。

午後は派遣地域ごと、2グループに分かれて懇談会となりました。休憩時には昨年帰国した隊員による、現在派遣中の隊員の写真やメッセージを集めたムービーを流しました。このサプライズの企画にご家族だけでなく関係者からも驚きの声が上がりました。企画は成功！

その後、リラックスした雰囲気となり、ボランティア経験者の経験談や同じ留守家族同士での情報交換、意見交換などをしました。

実際に行ってきた隊員へ様々な疑問をぶつけ、またその元気でたくましい帰国隊員の姿に安心されたご家族は多かったようです。

今後もこのように横のつながりを広げていけるような機会を増やせていけたらと思っています。

＜参加者から＞ 少しずつ家族として分かちあえるものをつかみたい / 自分の娘だけでなく、多くの方々がそれぞれの国で頑張っていることが心強い

※ JICA 東北ホームページ [山形県の情報] から、JICA 山形デスク・西川真里生さんからの記事を抜粋・転載

## 世界各地で活躍する協力隊員！

現在世界で活躍する JICA ボランティアは 82 ヶ国 2780 名に及びます（2012/4/30 現在）。山形県から派遣されている方々は青年海外協力隊 23 名、日系社会青年ボランティア 1 名、シニア海外ボランティア 5 名の計 29 名。職種も多岐に渡ります。

職種	派遣先	派遣開始日
コンピュータ技術	南アフリカ共和国	2011.6.20
ソーシャルワーカー	ニカラグア	2011.6.20
音楽	ヨルダン	2010.6.28
音楽	ヨルダン	2012.1.10
感染症対策	パプアニューギニア	2011.6.22
環境教育	パラオ	2011.3.24
司書・学芸員	ボリビア	2010.6.22
助産師	ニカラグア	2010.6.21
助産師	モロッコ	2011.6.27
助産師	ホンジュラス	2012.3.27
小学校教諭	ウガンダ	2010.6.24
小学校教諭	カンボジア	2011.6.20
食品加工	フィリピン	2011.10.3
食用作物・稲作栽培	ウガンダ	2010.9.30
青少年活動	コロンビア	2012.1.16
青少年活動	ラオス	2011.6.20
青少年活動	エクアドル	2012.3.22
村落開発普及員	ケニア	2011.9.26
電子工学	トンガ	2010.9.27
日本語教師	中華人民共和国	2011.6.27
日本語教師	インドネシア	2010.10.4
日本語教師	中華人民共和国	2010.10.12
輸出振興	ドミニカ共和国	2010.10.4
幼児教育	ヨルダン	2010.9.27
理学療法士	ベトナム	2012.1.10
理数科教師	ジブチ	2011.6.13
理数科教師	ケニア	2011.1.5
理数科教師	パプアニューギニア	2011.6.22
料理	モロッコ	2011.8.2

## インタビュー

### 協力隊 OG 佐藤麻都香さん

青年海外協力隊 OG で山形大学大学院生の佐藤麻都香さんに、協力隊を志したキッカケや現地での活動などを伺いました。

Q. どんな子ども時代でしたか？

宮城県仙台市出身。小学校に行く時もわざと山のほうを通ったりする、わんぱく系でした。

母方の実家が農家で、農繁期には田植や稲刈りの手伝いを。遊び上手な叔父の影響で、トラクターに乗せてもらったり、農作業の楽しさを知りました。

Q. 協力隊への道は？

高校 1 年生で米国に知人を訪ねる 10 日間の一人旅。高校 2 年生の化学の先生が協力隊 OB だったのをキッカケに、本格的に調べ始めました。

小さい頃の思い出から農業を志し、山形大学農学部へ進学。栽培土壌学を中心に学び、鶴岡市の田んぼとダダチャ豆畑、インドネシアのプランテーションで調査研究に汗を流しました。JICA イベントに参加したり、協力隊 OB に話を聞いたりしました。

卒業前に協力隊募集に応募し、合格。卒業後、長野県の研修所で 65 日間の研修を受けました。シニアボランティアも含め 200 人が合宿。楽しかった！

Q. ブルキナファソでの活動は？

2009 年 1 月から西アフリカのブルキナファソへ「食用作物・稲作栽培」という職種で派遣。現地ではトウモロコシを乾燥させ、粉にして、ドロドロに煮て寒天状にしたものが主食。米は貴重で、お祝いの時ぐらいしか食べません。暑さと乾燥に強く高収量なネリカ米

## 《平成 23 年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期 日	事 業
6 月 4 日	定例総会／事業報告、決算報告、事業計画、予算の承認 帰国報告（ボリビア、ガーナ）
6 月 1 日～ 29 日	東海林美紀さんの写真展 於：致道博物館／入場者：約 4000 名
6 月 23 日	23 年度 1 次隊 表敬訪問並びに壮行 — ニカラグア、カンボジア、中国、パプアニューギニア、ラオス／5 名
9 月 24 日	23 年度 2 次隊 表敬訪問並びに壮行 — フィリピン／1 名
12 月 13 日	23 年度 3 次隊 表敬訪問並びに壮行 — ヨルダン／1 名
3 月 3 日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会、国際協力エッセイコンテスト受賞者の作文朗読 帰国報告（マダガスカル、パラグアイ） 於：山形テルサ（山形市）
3 月 16 日	23 年度 4 次隊 表敬訪問並びに壮行 — ホンジュラス、エクアドル／2 名

※ 5 月 26 日—第 10 号機関紙発行、育てる会のカレンダーの作成並びに会員への送付

(日本とアフリカの共同研究で出来た「NEw RiCe for Africa」)を紹介し、定着させるのが任務です。配属先は農業水利水産資源省 西南部地方局。ブグリバ県都・ディエブグから南に10kmほど離れたバブラ村に毎日通い、農業学校に住み込んでいる14～25歳の生徒たちと一緒に、ネリカ米の展示ほ場を作成しました。



農業学校の卒業生や近隣の村人10数名に種もみを配布し、栽培状況を追跡調査。1人は鳥の被害を受けましたが、概ね良好。5人ほどの女性グループも大きな成果を挙げ、「来年も植えたい」と言ってくれました。ブルキナファソは立派な農業国です。日本人が直接村人に教育するより、CPR(農村支援センター)同士が交流し、身近な事例を学び合う場を作ることが有効だと感じました。

#### Q. 帰国後の活動は?

2011年3月に帰国。山形大学大学院に入学し、杭州(中国)の水田土壌を研究しています。2012年6月から、5ヶ月間の短期ボランティアで再びブルキナファソへ。予告なしにバブラ村を訪ねて、友達たちや近所のおじさんおばさんを驚かせたい! 将来的には、日本で農業をしながら、外国からの研修生を受け入れたり、地元の子ども達を巻き込んだ国際協力をしていきたいです。

#### Q. 中高生へのメッセージをお願いします

山形県の恵まれた環境や農業の素晴らしさに気付いてください! 外から見ると地元の良さが見えてくるので、積極的に違う文化に触れてほしいです。日本人は頭の中の知識は豊富ですが、実際にコミュニケーションを取るのが苦手。不安がらずに、話しかけてみましょう!

## 日本の女の子が 世界の女の子について知るきっかけに

写真家として活躍する東海林美紀さん(ニジェール・エイズ対策・18年度3次隊・鶴岡市出身)が撮影参加したチャリティーフォトブック『GIRL meets GIRL 日本の女の子と、世界の女の子。』(木楽舎)が2012年5月25日に発売されました。(本体933円+税)

#### ～東海林さんからメッセージ～

この本のために、日本とタンザニアの女の子たちを撮影しました。タンザニアでは短期間で多くの撮影をしなければなりませんでした。隊員時代に培った情報収集力、ネットワーク力、コミュニケーション力がとても役に立ちました。一緒にご飯を食べたり、メイクをしたり、ガールズトークをしたり。撮影させてもらった女の子たちは皆、目をきらきらさせながら将来の夢を話してくれました。

自分と同じ年代の女の子たちがどのような生活をし、どのような問題を抱えているのか。この本が、日本の女の子が世界の女の子について知るきっかけになればと思います。



◎ご購入は <http://charitypink.com/jp/book.html> から。

### ■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』 入会のご案内

【会費】 ●個人会員=3000円 ●家族会員=1000円(個人会員の家族)

●学生会員=1000円 ●団体会員=10000円(企業及び団体)

【会員特典】JICAボランティアの姿を通して、世界が見える!

「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料5000円のところ、希望する会員には2000円の送付手数料のみで1年間12冊ご提供いたします。

☆お問い合わせ/ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

## やまがた地球家族 VOL.10 平成24年5月26日発行(第10号) 発行人/酒井忠久

発行/〒999-7725 山形県庄内町沢新田151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

TEL&FAX) 0234-42-1458 (富樫) E-mail) info@chikyukazoku.net Website) <http://www.chikyukazoku.net/>